世界の調和者

yuuyas

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界の調和者

【Ｎコード】

Ｎ６４９９Ｙ

【作者名】

ｙｕｕｙａｓ

【あらすじ】

ある日、神宮正和（じんぐうまさかず）は少女を助けて死んでしまった。だが目を覚ますとそこには純白の世界、さらに目の前で絶世の美女が頭を下げていた？その人は自分のことを神と名乗って・・・「彼方を私の神（しん）認者（にんしゃ）になってもらって、私の担当している世界に生まれ変わっていただきその世界の調和者（ちょうわしゃ）になって下さい！」え？なんで！？

よくある異世界転生ものです。魔法や魔物がいたりのファンタジーもので、主人公最強、ハーレムあり＜主人公朴念仁＞、人が死んだりします。この様なものが苦手なお方はご注意ください。

この作品は初の小説なので、誤字、脱字があると思いますが温かく見ててください。よろしくお願いします。

プロローグ（前書き）

初投稿です。以後よろしくお願いします。

プロローグ

「明日から夏休みだ～」
俺、神宮正和(じんぐうまさかず)は叫んでいた。
なぜ叫んだかって？だってね，去年の夏休みはさんざんだったんだ。

去年のこの日、なんか久しぶりに公園行きたいな～なんて思って行ったら
いきなり、男の子が出てきて道路に飛び出しって行ったんだよ。
そしたら、曲がり角からトラックが出てきて男の子が轢かれそうになったんだ。
俺はとっさに飛び出して、男の子を抱え込んだ。
「痛っ」
奇跡的にどちらとも無傷と言うわけにはいかなかったようだ・・・
俺は激痛がする右腕の方を見ると中の肉が見えてた・・・・

その後、男の子のお母さんが来て、物凄く感謝してくれて救急車まで呼んでくれた。
診察を請けたら、腕の皮がむけて肉が見えてただけだった。
折れてるかと思った・・・・

で、このせいで俺は3週間右腕が使い物にならなくなり、
治ったと思ったら残りの1週間宿題に追われ
夏休みのさよならだ！

今年こそは遊びまくってやる！そんな事を思っていると
去年事故にあった公園に来ていた・・・

嫌な予感がする。
俺はこの場所からいち早く逃げるために、全力で逃げた。
へたれだって、しょうがないだろ
また遭(あ)ったら夏休み消えてしまうじゃないか。

しばらく走って、さっき通った交差点にいた。
「はぁはぁ」
５００ｍぐらい思いっきり走った。疲れたぜ・・・
俺は顔を上げると横断歩道に５，６歳の女の子が転んでいた。

信号が点灯し始めた、すごく痛かったのだろう。
危ないから女の子を助けようと
「プップ～」
赤信号なのにワゴン車が曲がり始めた。後ろにはパトカーがいる。
盗難車だろう。ん？あの子めっちゃ危なくない？

（助けなきゃ！）
俺は全力で走り、少女を抱えた。
また夏休みが消えたな。また来年夏休み。

「バ～ン！」

音と一緒に俺の体に激痛が放ち、それと共に意識が消えていった・・・

そして、一人の少年が少女助けて命を落とした。

プロローグ（後書き）

読んで下さった方ありがとうございます。
この話で主人公がどんな人か分かったと思います。危険なのを分かっていても人を助けてしまう。主人公体質、これ以外にも人助けしているのですがそれは、ストックが切れたときに書かせていただきたいと思っています
次回は神との対面で、ここで色々能力をもらいます。
次話も読んでもらえたら嬉しいです。

神の世界（前書き）

２回目の投稿です。この作品で結構重要な神の登場です。名はヘルシスです。どうぞ、お楽しみください。

神の世界

「う～」

真っ暗な世界だ。
体が重い、なんでだ？
何かあったけ？

あれ？確か女の子を助けて、そのまま・・・
死んだ？
でも、なんで体に感覚あるんだ？
力を入れると動けそうだな。

俺は回りを確認するため目を開いた。

「なんだ～？」

俺は驚いた。目の前には純白の世界で広がっていた。
それと、「何であなた頭下げてるの？」

なんかわかんないけど目の前に金髪の女性が頭を下げていたのだ。

「すいませんでした！」

頭を下げながら腰を何度も折っては伸ばしを繰り返してた。
辛くないのだろうか？
あ、そうじゃなかった。

「頭上げてください。」

「はい・・・」

やっと顔を上げってくれた。
それにしてもきれい過ぎるだろう。
目の前の女性は絶世の美女と言ってもおかしくは無いだろう。
それくらいの美貌《びぼう》だった。
でも、凄いまぶたがうるうるしてる。
にしても綺麗だな～

「どうしたのですか？ぼっとして？」

あ、やば見とれてた。

「い、いえちょっと考えごとしてて・・・それにしてもここ何所ですか？
あと何で謝っていたんですか？」

「ここですか？ここは神の世界という場所ですね。
謝っていた理由は・・・私のミスで彼方を死なせてしまって・・・」

「え？ミスですか・・・」

「はい・・・少し時空を歪めてしまい、
彼方の生きる時間を減らしてしまって・・・本当にすいませんでした。」

またもや頭を下げられてしまった。あの～何でまた涙目になるんですか！

「いいですよ。ミスぐらい誰にもありますから。
それより次進みませんか？ほら～あの、神の世界？だっけその事で。」

「ありがとうございます。優しいですね。ではお言葉に甘えてここの説明をします。
神の世界言葉通りで、神々が住む世界です」

切り替え速え～神々が住む世界？じゃあこの人は・・・

「じゃあ、あなたは神様？」

「はい！私は神です。神宮正和さん」

「何で俺の名前を？」

「当たり前ですよ。神なんですから名前ぐらいは誰でも言えます」

「あ、そっか。神様の名前も教えてください。」

「私ですか？私はヘルシスです」

「ヘルシス、あ！すいませんヘルシス様」
やばい呼び捨ててしまった。

「いいですよ、ヘルシスで。というか、敬語もやめてもらえたら嬉しいです。」
「わかりました。じゃあ、ヘルシスさんで」
「はい！」
良かった優しい神様で。

そういえば何でここにいるんだ？
だってここ神の世界だよね？
「ヘルシスさん。俺はなんでここにいるの？」
「あ、話してませんでしたね」

彼女は大きく息を吸ってから・・・
「彼方に私の神認者（しんにんしゃ）になってもらって、
私の担当している世界に生まれ変わっていただき
その世界の調和者（ちょうわしゃ）になって下さい」

え？なんで！？

「何でですか！？こんな何にも取り得の無い俺なんか。っていうか神認者や調和者ってなんですか？」

「あ、あんまり一気に言わないでくださいよ～」
なんか、涙目になってるし。これって俺悪い？
つ～か神としての威厳なさ過ぎだろう。

なんか、静かになってしまった。居ずらい・・・
しょうがない俺から言わないと・・・

「すいません。一気に言いすぎました。じゃあ、一つ一つお願いします」

俺って結構甘いかも。

どうやら落ち着いた様で口を開いた。

「ありがとうございます。まずは神認者ですね・・・・・・・」

俺は彼女の長～いお話を聞いていた。
聞いた話だと神認者（しんにんしゃ）と言うのは、
俺みたいに前の世界で死んだ奴がある一定の条件が揃（そろ）えば、

神が認め―この世界（神の世界）に呼ばれて、生まれ変わり
神が干渉できない世界の乱れなどを直すものらしい。
このとき、前の世界の記憶は残っていなく、
神との対面時からの記憶しか残っていないみたいだ。
さらに、この神認者ってのにえらばれた奴は
そいつを認めた神の、１０００分の１の力と
神の武器（神器）をもつ事が出来るようだ。

世界の調和者（せかいのちょうわしゃ）（以後調和者と訳す）は、
その世界で一人で世界の一番高位神がその者気に入り、
ここに呼び出してその人に自分の担当している世界（神の世界）の調和者になって
てもらって、
その世界に戻り暴走した神認者（しんにんしゃ）や魔物の数を倒したりして調和する
ようだ。
そして、その人は神認者と一緒で神の力を受け取る事が出来る。
だが、力の桁が違う調和者はその神の１０分の１の力を受け取れる
みたいだ。
だが、神器はもらえないし普段は力事態に封印が掛かっていて、
それを解除しなければその力は使えなく、他の神認者から比べてか
なり弱いようだ。
たとえ、解除しても力に耐え切れず自爆するか、
その力を操っても体に負担が掛かり大怪我を負ったり、
あまりの力に世界が拒絶して周囲の環境がかなり悪くなったりする
ようだ。
使い勝手悪いな。

俺のように調和者と神認者の二つの力をもっている事は前代未聞

のようで、神認者はヘルシスさんが自分の世界に干渉したいからしたようだ。調和者は前の世界の記憶をある程度もっていないと出来ないようなので（何故だかは教えてくれなかった）俺には前の世界の記憶は残るようだ。

なんで俺が選ばれたかはヘルシスさんに気に入られた事と、事故に遭いそうになった人たちを助けたりした事で、自分で言うのもなんだがその～、心が優しいっていうのが重要みたいだ／／／
恥ずかしいな。

「誰に話しているんですか？」

えっ？なんで声に出していないはず。

「考えただけで思考は読めますよ。神ですから！」

「すごいっすね」

これしか言えない、今から考える事をやめよう。
読まれる。恐い

「でっ、話によると力と神器ってのをくれるみたいだけど・・・」

「あんまり、驚かないんですね？まあ、話が早くていいんですけどね」

「じゃあ、お願い」

「はい。まず、力を初めに」

あ～眩しいなんて素晴らしい笑顔なのだろう。

バカな事を考えていると、

「では、いきますよ～」

そんな事を言うと、ヘルシスさんはこっちによって来て

「ん～～～～」

え？唇にやわらかい感触が

キ、キ、キスしてる～

「ぱっあ～契約完了です。」

「なんで、キスなんですか～」

俺はいきなりされた驚きとこんなきれいな人神がキスしてくれた事の嬉しさや恥ずかしさで混乱しながら言った。

「あ、人はキスを愛情表現でやるんですね、忘れてました。

今のは、契約のキスで神が神認者（しんにんしゃ）にすることです。

どうですか？力が沸いてきたはずです。」

確かに力が沸いてきた。さっきはキスで気づかなかったけどこれは凄いな。

契約が親父だと最悪だな。ヘルシスさんで良かった。

俺は一人で安心していると苦笑いしているヘルシスさんに手招きされた。

「あの～いいですか？」

「すいません」

「いいんですよ」

なんて最高の笑顔だ癒される～

「次は、神器ですね。正和さんの神器は～「正和でいいよ。」え～はい正和／／／」

顔を赤くしてる。なんでだ？まぁいいか。

「えっと～正和の神器はこれです。

ヘルシスさんは右手に力を込めると白い粒子が集まってきて、一つに固まった。

その手には白色の刀が握られていた。

「これは？」

「これは、白の武器（ホワイトウェポン）です。
見た目のまんまですけどね。両手出してください。」

言われた通りに両手を出すと、
ヘルシスさんが白銀の武器を粒子にして俺の手に重ねた。
彼女と俺の手の間が強く白く光った。

彼女は手を離すと「出来上がりです。」
と言ってきた。俺の体は何にも変化がない。

「何か武器をイメージしてください。何でもいいですよ。
基本的に真空の場所じゃなければ出せますよ。
一種の創造能力を武器限定にして空間に出しているだけですから」

俺は言われた通りに一本の短剣を想像してみると、
右手から何もかもが白い短剣が有った。

「すごい！」

「はい！消す方法は無くなれって念じれば消えます。
切れ味や精度は武器を想像した時のイメージが大切になります。
例えば何でも切れろって思えば何でも切れる武器の出来上がりです。
武器の数などは想像の時に思ってください」

「わかりました」

俺は消えろと念じた。すると短剣が粒子に戻り、右手に吸い込まれていった。

「なんてチート」

「はい、これは物理系最強武器ですから。他の神認者の方も持っていますけどね。
これはほどでは無いですけどね。
あっ、でも物理以外でも空間、時空、特殊など色々ありますけど」

色々あるな。

俺はしばらくヘルシスさんと話した。
世界の名は「イニュート」と言い。詳しい事は転生した時に、勉強してくださいとのことだ。
神認者や調和者の力も転生した後で自分で見つけてくれと。
「なんで？」って聞くと、

「転生する前に教えてしまうとそれを意識してしまって、
この世界で暴走してしまうので言えません。」

こう彼女が言っているのだからしょうがないとしよう。
転生後は記憶は残り、何かが遭ったら俺の夢の中で話しが出来るって言っていた。
ビックリ！

「そろそろ、行くときですね。こっちに来てください。」

言われた通りにヘルシスさんの所に行く。

「ありがとうございました。ヘルシスさん」

「いえいえ、これからお願いしますね。正和」

にっこりと微笑んでいた。幸せだ〜

「では転生を開始します。空間転生術(くうかんてんせいじゅつ)！」

彼女がそう言うと俺の意識が無くなり、

再び真っ黒な空間に入って行った。

神の世界（後書き）

最後まで読んでくださってありがとうございます。今回は正和が死んだ後に来た神の世界のお話です。結構重要な話でした。神認者や、調和者（世界の調和者）の説明難しかったです。改めて文才の無さを自覚しました・・・・

次話は新章です。今までのはプロローグだったので、今までよりも頑張って投稿していこうと思います。次回もよろしくお願いします。

設定？（前書き）

設定です。今までの登場人物やその人達のステータスや使用魔法、登場魔物を書いていきます。あらわし方はＥ～Ａ→Ｓ→ＳＳ→ＳＳＳ→Ｘ→Ｒ左から段々能力が上がっています。成人男性の平均がＤとします。

この作品は、ギルドのランクや魔物、人、その他種族の強さでもこのあらわし方でいきます。無い場合は－で表します。

では、設定？です。どうぞ！

設定？

主要人物、その他種族
名　神宮（じんぐうまさかず）　正和（男）

種族　人族　歳　１４歳

体重　５６ｋｇ　身長１６７ｃｍ

容姿　上の中
髪は黒の長さは首の中間くらい
目の色は黒

性格　誰かが困っていたら後先考えずに助けに行ってしまう。
女性の恋心には全く気づかない。
負けず嫌い、やさしい、努力家、朴念仁

ステータス　知力Ｓ　力Ａ　走力Ｓ　体力Ａ　精神Ｂ
集中Ａ　回復Ｃ　運Ｃ
←（ヘルシスから力をもらった後）
知力Ｓ　力ＳＳＳ　走力ＳＳＳ　体力ＳＳＳ　精神Ｂ　集中Ａ　回復ＳＳＳ　運Ｃ
（魔法ステータス）
魔力量ー　、精製度ー　、戦闘力Ｃ（魔法が使えないので）

属性　火ー、水ー、風ー、土ー、雷ー、闇ー、光ー、無ー、氷ー、時ー、重力ー、空間ー、

特殊能力
白の武器（ホワイトウェポン）、？〜〜〜、？〜〜〜、？〜〜〜、？〜〜〜、？〜〜〜、

？〜〜〜

武器　白の武器（ホワイトウェポン）

キャラ説明

誰でも助けてしまう優しい人。１４歳の夏休み前に少女を助け死んでしまったが、神・ヘルシスのミスで死んでしまったと言う事で彼女の神認者（しんにんしゃ）と世界の調和者（ちょうわしゃ）になり新たな世界に生まれ変わる事になった。もともと運動神経や頭も悪くないため、ヘルシスから力をもらった時に普通の人としてはありえないスペックになってしまった。

名　ヘルシス　（女）

種族　神族　歳　？歳

体重　？ｋｇ　身長１７２ｃｍ

顔　上の上
髪は金で長さが腰までである
目の色は金

性格　何事も完璧にやる。恥ずかしがりや。
完ぺき主義、恥ずかしがりや

ステータス　知力Ｒ　力Ｒ　走力Ｄ　体力ＳＳＳ　精神Ｒ
集中Ｒ　回復Ｒ　運Ｒ

魔力量R　、精製度R　、戦闘力R

属性　火R、水R、風R、土R、雷R、闇R、光R、無R、氷R、時R、重力R、空間R、

特殊能力
白の武器（ホワイトウェポン）、神気、透し、思考解読、瞬間転移、夢介入、空間制御、時間制御、

武器　白の武器（ホワイトウェポン）

キャラ説明
正和の命を時空を歪めて短くしてしまうと言うミスをしてしまった、かなり天然な神様。だが、神の中ではトップクラスの力を秘めており、一つの世界（イニュート）の担当神である。ちょうど空いていた世界（せかい）の調和者（ちょうわしゃ）の座を正和に任せ更には世界に干渉するために自分の神認者（しんにんしゃ）の座までも与えてしまった。

モブキャラ
男の子（男）
特にないので無し

女の子（女）
特にないので無し

女のこのお母さん（女）
特にないので無し

登場魔法
・空間転生術（くうかんてんせいじゅつ）
使用者　ヘルシス
級　神級
属性　空間
範囲　自分から５ｍ
人数　一人
威力　使用者の空間魔力と魔力量に比例する。
説明
　別空間に飛ばしたい物質、生物を指定して飛ばす。
飛ばす空間は神ではないとしてい出来ない。
術使用者が死んだ時に元の空間に戻れる。
別空間内でも歳をとる。
　空間の魔力と魔力量がＳＳＳ以上でないと使えない。

魔物
（登場しません）

設定？（後書き）

設定？でした。設定は章の終わりや、長ければ区切りのいい所でやっていきます。武器は５～１０個ぐらい溜まったら「武器設定」、道具は（以後アイテム）は３０個ほど溜まればやろうと思います。次はいよいよ新章突入！です。

誕生（前書き）

ｙｕｕｙａｓです。この章は正和の転生先「イニュート」も世界観や正和の力について書こうと思います。さて、今回の話は短く正和がイニュートに産まれてくる話です。お楽しみください。

誕生

暗いな。
俺は確か・・・ヘルシス(神)さんに神の世界だっけか？で会って・・・
神認者(しんにんしゃ)や調和者(世界の調和者)について話されて。

転生して、その世界の調和者になるんだっけか？
あれ？つ～かここ何所だ？

俺はいきなりの状況に困惑していると
行き成り激しい光が体全体を包んだ。
眩しい！俺は声を出そうとすると

「おぎゃ～おぎゃ～」

ん？おぎゃ～おぎゃ～？
な、なんだ！声がおぎゃ～だと！
よ、よし、れ、冷静になるんだ。
まずは深呼吸を（スーハー、スーハ）
ＯＫ落ち着いた。声出すぞ～

「おぎゃ～おぎゃ～」

・・・・・・・・・
なんじゃと～！
何の嫌がらせだ！

俺が何をした！
１４歳に赤ちゃんをやらせるだと！
精神的にきついだろ・・・ごめんよ、母さん。

俺は３０秒間心の中で泣き叫んだ・・・

おっと、何かがそれたな。
まず俺は、転生して・・・
あっ、そっか転生したから赤ちゃんなのか！
な～る。（どうしようかと思ったよ。良かった～）

「アーサー産まれましたよ～」

一人で安心感に浸っていると、
疲れきったような、だがとても美しい女性の声が聞こえた。
誰だ？

「ああ、マリアご苦労様。
この子の名前どうする？ジルも考えるか？」

今度は、逞しい男の人の声が聞こえてきて、
そのままアーサーと呼ばれる男性が俺を抱き上げた。

「うん！かんがえる。なまえはね～、オが付くなまえがいいなぁ～」

次は、幼い感じの男の子、多分ジルって子だろう。
その子の声が聞こえてきた。

「オですか？オ、オ、オ！オルッスなんて、どうですか？アーサー」
「オルッス。いい名前だ。それにしよう、この子は今からオルッス・ワーソンだ！」
「おるっす。うん！いい、ぼくも、きにいったったよ」

三人で楽しそうに笑っている。

いいなぁ～仲が良くて楽しそう。
そんで、今の状況と話を聞くと俺が赤ちゃん（オルッス）で、
産んでくれたのはさっきの女性（マリア）みたいだな。

「オルッス、これからよろしくね」
女性（マリア）が優しく俺の頭を撫でながら言ってくれた。

俺は新たな家族に迎えられ、
新鮮な気持ちと家族の温かさを久しぶりに感じたせいか、
ものすごく眠たくなってきた。

そして、俺はそんな気持ちを抱きながら深い深い眠りについていった。

こうして、このイニュートの世界に、
神に世界の調和を任せられた一人の少年が誕生した。

誕生（後書き）

最後まで読んでくださってありがとうございます。この話では登場人物が増えます。オルッスは正和ですから、３人ですけどね。この三人の設定などはこの章の中間か終わりで設定？として投稿したいと思います。

第２章の「幼少時代」では主にこの４人＋村人＋ぼちぼち魔物で進めていこうかなと思います。増やしすぎると名前に困ってしまいますが、そこは頑張っていこうと思います！では、次話でもよろしくお願いします。

夢（前書き）

寒いですね～この頃、朝起きると「ぶるぶる」って体が震えます。
さて、新たに投稿しました。タイトルは「夢」です。
前にコメントを頂いて、説明不足かなぁ～と思ったので2話目の「神の世界」の補足として書かせてもらいました。
では、お楽しみください。

夢

ん？ここは何所だ～？
いつもみたいに真っ暗ではないけど、
どっちかって言うと明るいな。
俺、確か赤ちゃんになってたはず。

眠たくなって寝たのか。赤ちゃんだからしょうがないな。
うん。一人で納得してみた。というか体が赤ちゃんなんだけど・・・
まぁ～いいか。本当に、ここ何所だ？

「正和～ここですよ～」

その声は数時間前に聞いた、笑顔の素晴らしいあの、神様の声だった。

「ヘルシスさん。お久しぶり？」

「お久しぶりです。正和。」

そう言って彼女は、ふか～く頭を下げる。俺もつられて礼をする。

「どうしたんですか？ヘルシスさんがいるって事は、
ここは俺の夢の中ですよね。」

「はい、そうです。結構大変でした～神の世界とここを繋げるの。

軽く15年はかかりましたね」

「15年！」

ビックリした。十五年って、俺さっきこの世界来たばかりだぞ。

「大変なんですよ～空間の移動は、次はすぐ来れますけどね。」

「凄いですね！まぁ神だから何でもありか・・・」

凄いなぁ～これしか言えないよ。神、恐るべき。

「でっ、ヘルシスさん何で来たんですか？」

「えっとですね～前、力が暴走するかもしれないからと言って
詳しい力の事言わなかったじゃないですか。
あの後で気づいたんですけど、あんまり自分の力を知らないと
他の神認者（しんにんしゃ）の人達に襲われたり、
暴走した時に力の制御方法を知らないと、
私が来る前に暴走を止められないと思ったんですよ。
なので、力のある程度の情報と、この世界（イニュート）の法則を説明しに来ました。」

要するに、俺が何も力を使えない小さい時や、
力を使った時に暴走した時のために、
その力の制御方法を知らないと暴走を止められないからと、
前に俺が力を酷使し過ぎるとイニュートが、
それを拒絶して周りの自然環境が悪くなるとか言っていたから
どのようにやったら世界が拒絶しないですむかで

法則を説明するんだな

「わかりました。お願いします。」

「はい。まず、正和さんの力から言いますね・・・」

～ヘルシスさんが説明を始めてから約1時間～

長かったぜ！一通り聞いてやっとわかった。
えっと～つまり、俺の力は神認者(神認者)の神の１０００分の１の力と、
今は封印されている世界の調和者(せかいのちょうわしゃ)の神の１０分の１力の二つある。

神認者(しんにんしゃ)の力は神器(しんき)俺の場合は白の武器(ホワイトウェポン)と、
神級魔術が使えることと、致命傷だと思われる傷も一瞬で直したり、
契約した神の得意属性の魔法がとても強くなるらしい。
ヘルシスさんは全属性得意らしい。

(魔法には初級、下級、中級、上級、最上級があり、
普通の人では最上級が使える魔法の限界で、
詠唱が必要になり、
神級は文字通り神のレベルの魔法で魔術と言って神認者しか使えず、
詠唱が要らないようだ)

だが、いくら他の神認者達とは基本的な力では勝っていても、
技能や経験の差で戦ったら即死するらしい・・・
だから、強くなるまでは戦うなと言われた。
どうやら他の神認者達は、あまり積極的にに行動していないらしい。
大きな行動を起こす時は神が命令を出して、
神の利益になるように動くようだ。

調和者の力は6歳（平均的に自分で魔力を操れる歳）になったら
封印が甘くなり、
過程さえふめば、俺でも封印を一時解放出来るようだ。
開放すると魔力がほぼ、上限無しで使えるようになる事だ。
でも、力が暴走したりする事もあり。
それを止めるには、自分で「一時封印魔術（いちじふういんまじゅつ）」を使わないと駄目らしい。
後で覚えさせられるようだ・・・
後の力は飢えた土地、人工的に破壊された自然の回復や、
神認者（しんにんしゃ）の精神世界から神の世界へ干渉する力だ。
（神認者が行動した時にその行動が世界にとって、
何らかの悪影響が及ぶのなら、その神認者を倒し
その人の精神世界から直接神の世界に干渉して
神を倒すのが調和者の仕事だからだ。）
その後にヘルシスさんが神に罰を与えて反省させるようだ。
それ以外は、魔物を倒したときに出る魂（憎悪）を清め
清浄な魂にする事だ。

つまり、調和者の力は世界の乱れを調和するためのようなものがほとんどだ。

白い武器(ホワイト・ウェポン)は前に言われた通り、
俺が思えば、色は絶対に白だがどんな武器を造れる。
後は消えろと念じなけてば、武器は壊れるまで消えないらしい。

イニュートでは、色々な種族が共存しており、
(人族、魔族、人獣族、獣族、エルフ族、妖精族、聖獣族、天使族、悪魔族)など
沢山いるようだ。陸は大きな大陸が二つあって、
他にもさまざまな島が多くあると言う。
エルフ、妖精、聖獣以外は村や町に住んでおり、
この三つの種族はそれぞれ特定の場所にいるようだ。
言葉はヘルシスさんが俺に「通訳魔法(つうやくまほう)」を
かけているから余計な事は考えなくていいとの事だ。

問題なのは急激に魔物の数が爆発的に増えていて、
民間の種族達が襲われたりする被害が多発しているようだ。
なので、まず神認者を倒すより先に、
魔物の数を減らせてくれると嬉しいのことだ。
だが、倒した際に出る魂(憎悪)が人の中に入ると、
その人は、魔物の魂(憎悪)に取り付かれ自らも魔物になり、
人を襲うようだ。

さらに、この世界にあまり強い負担をかけるとマナ(空気中の魔力)が暴れて、
自然環境を壊すようだ。
なので、この世界の人達は
まず、結界魔法を覚えてから攻撃、回復、補助などの魔法を覚える

ようだ。

これが、ヘルシスさんが一時間ぐらいかけて説明してくれた内容を俺なりに、噛み砕いて改めて自分で自分自身に説明したことだ。

「相変わらず長いですね～」

俺はもうふらふらだ。

すると、苦笑いしてから

「長くて、すいません。このくらいです。

後は正和に「一時封印術（いちじふういんじゅつ）」を

習得してもらうだけですね。

これは、神級なので詠唱は必要ありません。

やり方は自分の胸に魔力を貯めてそれを凝縮する感じです。

ヘルシスさんがやって見せてくれた。

すると、ヘルシスさんの体中の魔力が胸に集まっていって、

「す～」っと息を吸ってから

「一時封印術！」

と言った。

すると、白い力がその魔力を上から飲み込んだ。

パチパチ～、拍手！凄いね～

「さぁ、正和もやってみましょう♪」

「ＯＫです」

俺は集中すると赤ちゃんの小さな体の魔力が胸に集まってくる。
そして・・・「一時封印魔術！」
と叫ぶと、俺もヘルシスさんと同じように
白い力が集っていき魔力を飲み込んだ。

体に感じていた魔力が無くなった感じがする・・・

「このくらいですかね。言う事は言いました。「一時封印術」は、
一時間ぐらいしか効かないので、使ったのを感知したら私が「封印術」を
掛けに行きますので」

「わかりました。ありがとうございます」

「あっ！時間の事言うの忘れてました。イニュートの時間は前の世界（地球）と同じです。
正和さんが産まれたのが夜だったので、産まれた後日の朝ですね
イニュートの事をよろしくお願いします」

「はい、頑張ってきます」

「はい♪頑張ってください」

彼女がそう言ういい、ニッコリと笑うと
「空間移動（くうかんいどう）」と言って、

俺の夢から消えて行った・・・

しばらくすると、何所からかやさしい声が聞こえてきた。
それは昨日聞いた。俺を産んでくれた新しい母の声だ。

目を覚ますとここに来てからの始めての一日が始まった。

夢（後書き）

どうでしたか？2話ではわからなかった事がわかってもらえていたら嬉しいです。
前書きでも書いた。コメントを頂いた事なんですけど・・・とても参考になりました。ありがとうございました。
私は始めて小説と言うものを書くので色々と気づかないで投稿してしまって、後で「あ、」ってなる事が多いのでコメントで指摘くださって、とてもありがたく思います。
他の人々も気になる事や指摘などあればコメントをよろしくお願いします。
最後まで読んでくださってありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6499y/

世界の調和者

2011年11月24日15時53分発行